

〈第24回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会〉

全 体 報 告

環境システム計測制御学会 企画委員長

田 子 靖 章

(メタウォーター(株))

第24回環境システム計測制御学会 (EICA) 研究発表会は10月25日(木)、26日(金)の両日、神奈川県横浜市開港記念会館で開催され、227名の皆様の来場を頂き活発な討議が行われました。ご協力頂きました関係各位、並びにご参加いただきました会員各位に厚く御礼申し上げます。以下、本研究発表会の全体概要についてご報告致します。

25日の講演およびパネルディスカッションは大講堂で行われました。当学会会長の清水芳久会長の開会挨拶に始まり、横浜市環境創造局長の荻島尚之様から祝辞をいただきました。

続いて「下水道の新たな地震・津波対策」と題して、早稲田大学理工学術院教授の濱田政則様より基調講演をいただきました。講演では、現時点で国は最大津波高さに関する方針を表明していないため、各自治体が独自に津波高を定めて耐津波対策を策定しており混乱した状況であることの紹介がありました。また、ライフラインの中で最も被害を受けるのが下水道であり、ライフラインの先頭に立って耐津波対策を打ち出す必要があること、更にリスクを軽減するという観点で、被災後に早期復旧できる施設づくりを目指すことが重要であることを講演いただきました。

パネルディスカッションは、座長を京都大学大学院工学研究科教授の田中宏明様、パネリストを早稲田大学理工学術院教授の濱田政則様、仙台市建設局南蒲生浄化センター所長の石川敬治様、横浜市環境創造局下水道施設部長の小浜一好様、東京大学大学院工学研究科准教授の小泉秀樹様、EICA 名誉会員 (元東京都下水道局施設管理部長) の中里卓治様の5名により、「大震災に備える水インフラの整備」と題して行われました。

ディスカッションでは、東日本大震災直後の首都圏地区における下水処理場の省エネルギー運転成果や、今後発生が予想される地震に向けたBCPの制定並びに減災・防災を実現するための技術面での議論がありました。また、水道と下水道の施設回復時期のギャップにより生じる排水問題について、上下水道の連携の可能性に関する議論がありました。また、下水道の被災状況に関する情報提供が重要であることが指摘され

● 基調講演



早稲田大学理工学術院教授
濱田政則様

● パネルディスカッション



京都大学大学院 田中宏明教授



仙台市建設局
南蒲生浄化センター 石川敬治氏



横浜市環境創造局 小浜一好氏



東京大学大学院准教授 小泉秀樹氏



EICA 名誉会員 中里卓治氏

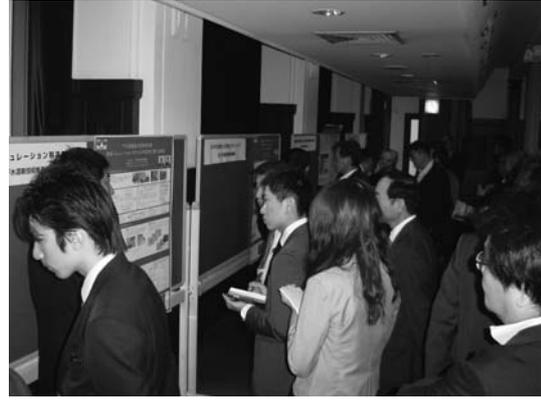
● 研究発表会
会場の様子



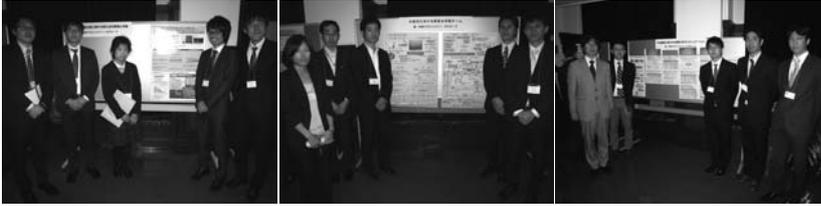
● 奨励論文表彰式



● ポスターセッション会場の様子



● 新・未来プロジェクト II



Group - A

Group - B

Group - C

● 交流会の様子



ました。更に、復旧から復興までのソフト面をどのように対策すべきか等、興味深い議論が交わされました。

引き続き、奨励論文賞の表彰式が行われました。5編の論文が奨励論文として選考され、清水芳久会長より賞状と副賞が手渡しされました。

その後、会場をアプローズ NEWS ハーバー横浜に移動して開催された交流会では、ご来賓、講師の諸先生と多数の参加者により有意義な意見交換の場となりました。

26日の午前は、「東日本大震災後の水インフラの復旧成果と復興方針」と題して、計14編のポスターセッションが行われました。ライフライン被災時の仮設による応急復旧など復旧支援に関する取り組みの事例発表や、津波シミュレーション、下水道光ファイバーの活用などの新技術による新たな取り組みや、廃棄物の資源化技術など復興に向けた震災に強い新たな下水道施設の発表がありました。また、当学会の若手研究者・技術者らによる新・未来プロジェクトチームからは、災害に強いしなやかなライフライン実現に必要な提言について発表がありました。また、仙台市の南蒲生浄化センターにおける「3・11の証言」と題したドキュメント映像を上映しました。これは被災と復旧に

対応した職員の生の声が聞ける貴重なドキュメントであり、この映像から下水道施設の被災状況や、被災時に何を優先復旧すべきかなど、様々な事を考えさせられる内容でした。

午後の研究発表会では、運転計画4編、下水処理制御4編、監視システム4編、脱臭・汚泥処理4編、広領域4編、シミュレーション4編、浄水制御5編、計測・監視4編、震災対応4編の合計37編の論文発表が行われました。発表は、近年の環境問題への関心の高さや、昨今の電力供給逼迫の解決に向けた運転管理方法や、省エネルギーや薬品量の削減といった視点での制御の研究があり、浄水場や下水処理場における新しい運転計画に寄与する可能性に期待の持てる研究でした。また、広域監視・監視制御システム運転管理の維持管理の高度化につながるものも多く、次世代の監視制御システムに期待の持てる研究成果が発表されました。各セッションでは研究発表論文の発表と質疑応答が行われ、それぞれのセッションでは活発なディスカッションが行われました。

今回の研究発表会でなされた様々な情報交換、議論が来年の研究発表会へとつながり、更に多くの研究成果が生まれることを祈念いたします。